

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月19日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の育成を軸に社会的・職業的自立をめざし、新学習指導要領の実施に向けた教育課程の工夫・改善に取り組むとともに、継続的な授業改善を進める。</p> <p>②学校行事や生徒会活動を通し、共生社会の一員として他者を認め、互いに尊重しあい、主体的・自発的な活動を促進する。</p>	<p>①基礎学力の育成を軸に社会的自立をめざした教育課程の工夫・改善に取り組むとともに、ICTの有効活用を含め、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け継続的な授業改善を更に進める。</p> <p>②年間指導計画や学校行事の見直し、精選を進め、生徒が主体的・意欲的に運営・参加し、より満足度の高い行事の計画・運営を行う。</p>	<p>①基礎学力の育成を軸に「わかる授業」「生徒が主体的に参加できる授業」を工夫・実践し、ICTの有効活用、授業改善を一層推進する。また、指導と評価の一体化を目指し小単元テストの実施等、効果的な評価方法を検討する。</p> <p>①教科横断的な学びの展開、総合的な探究の時間の実施内容の工夫を進め、主体的・対話的で深い学びを通じて基礎学力・発展の学力を育成する。</p> <p>②生徒会等の活動の活性化を図り、行事運営等において、生徒が主体的に運営できるよう指導を徹底する。</p>	<p>①小単元テストや振り返りプリント提出等を定期的実施し、授業改善に生かされたか。</p> <p>①授業改善のために教員研修等を通じてICTの利活用頻度が上がったか。</p> <p>①総合的な探究の時間等を通じて、生徒の主体的で協働的な取組を実施できたか。</p> <p>②生徒会活動、委員会活動の仕組みを工夫し、生徒一人ひとりが活躍できる場を設定できたか。</p> <p>②生徒が主体的に企画・運営し、参加する学校行事が行われ、生徒の参加率が向上したか。</p>	<p>①単元テストやプリント提出を頻繁に行うことで基礎学力の定着に結び付けることができた。</p> <p>①ICTの有効活用を図り、動画やパワーポイント他、視覚や聴覚的な教材を積極的に活用し、学習に向かう意欲を醸成した。</p> <p>①探究活動の推進を目的とし生徒のペアワークやグループワーク、発表機会の充実に努め授業改善を図った。</p> <p>②生徒会活動の活性化を図り、学校行事及び委員会活動等の生徒主体の取組を推進した。</p>	<p>①生徒一人ひとりの基礎学力や学習に取り組む意欲に大きな違いがあることを踏まえ、更にICTの有効活用を含めた個別最適な指導の構築に向けた取組を促進する必要がある。</p> <p>①基礎学力定着なびに指導と評価の一体化に向けた授業改善や評価方法の検討を継続して実施する。</p> <p>②生徒主体の行事運営の更なる活性化に向けた組織の見直しや推進方策、活躍の機会拡充に向けた検討を行う必要がある。</p> <p>②生徒数減少に伴い、行事の精選と活性化を両立する必要がある。</p>	<p>①授業見学を通じて、生徒たちが和やかで落ち着いた表情を見せており、アットホームな雰囲気をつくり学校が安心して過ごせる場所になっていることが分かった。教職員の努力の賜物であると思う。</p> <p>①指導と評価の一体化とは教員の授業への評価も含まれており、スモールステップで生徒の学びを見取することは非常に有意義であるため、更に進めていってほしい。</p> <p>②10月に文化祭も参観したが、少人数ならではの行事運営の工夫が見受けられる。今後も在籍する生徒のニーズや興味関心を確認しながら、生徒が主体的に活動できる後押しを進め、生徒と共に行事の活性化をめざしてほしい。</p>	<p>①基礎学力の育成を軸に「わかる授業」、「生徒が主体的に参加できる授業」を実践し、スモールステップでの学びの見取りを進めるため、復習テストの実施や常にプリント提出を求める授業を行った。指導と評価の一体化に向けた取組を推奨している中、今後は更に授業改善及び評価方法の改善が求められる。</p> <p>①一人一台端末の利活用を進めるため、学習支援グループが中心となり頻繁に教員研修を行い、効果的な利活用について情報共有に努めた。教科によって利活用度の偏りがあるため引き続き研修等を通じた実践に努める。</p> <p>②生徒が主体となった学校行事の推進に向け、昨年度以上に生徒会本部はもとより委員会等の組織の活性化を図った。生徒数の減少や施設の耐震工事等の影響により行事運営に支障が出ないよう運営等の工夫が求められる。</p>	<p>①追認指導から補習指導に変更した3年目の反省を生かし、授業や評価方法の改善とリンクした補習指導に着手する。</p> <p>①一人一台端末導入開始3年目となり、担当グループ相互の連携を図り、より効果的な端末利活用を提案・実施する。</p> <p>①基礎学力定着に向け、教科横断的な学びの構築や総合的な探究の時間における実施内容を見直した成果を発揮する。</p> <p>②クラスや各委員会などにおいて生徒がリーダーシップをとることができるよう組織運営の方法を更に改善し、生徒主体の行事等の活動を通して社会性を育み、生徒の自己有用感を醸成する。</p> <p>②10月からの体育館耐震補強改修工事を見据え、文化祭や球技大会等の企画運営を工夫し、限られた施設においても行事の充実を図る。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりが抱える課題を的確に把握し、外部機関と連携したきめ細かい個別支援を組織的に進める。</p> <p>②部活動において生徒の主体的・自発的な活動に向けた支援を継続的に進める。</p>	<p>①保護者との連携を密にし、生徒の状況把握・情報共有を図るとともに、外部機関とも連携した組織的で、きめ細かな支援体制を構築する。また、積極的な生徒指導を推進し授業マナーの遵守及び身だしなみ指導等を通じて、安全安心な学校生活環境を構築する。</p> <p>②生徒が主体的・自発的に部活動に取り組むことができるよう教職員の支援・指導体制を構築する。</p>	<p>①全職員の共通理解のもと生徒の状況把握に努め、外部機関とも連携した、組織的できめ細かな支援体制についてより効果的な方策を示し、実践する。</p> <p>①積極的な生徒指導の推進のため、保護者への綿密な連絡を図る。併せて身だしなみ及び授業マナーの遵守等を強化・徹底する。</p> <p>②生徒の主体的な活動を促すため、教職員が部活動を指導・支援する時間を確保する。</p>	<p>①生徒支援の観点から、全職員の共通理解のもと、保護者や外部機関と連携したきめ細かな支援を行うことができたか。</p> <p>①授業改善、授業への取組姿勢への支援等、積極的な生徒指導を通じて、授業マナーの遵守及び身だしなみ指導を定着できたか。</p> <p>②生徒が主体的・自発的に部活動に取り組む体制ができたか。また、部活動加入率向上等改善を図ることができたか。</p>	<p>①個々の生徒情報を教員やSC、SSW、児相等の外部人材とも共有し、的確な保護者連携を行い、個別最適な支援を実践できた。</p> <p>①フォローアップ週間や身だしなみ指導、遅刻指導を通じて授業マナーや社会的モラルを醸成した。また、身だしなみ指導の取組は県教育委員会から表彰を受けた。</p> <p>②部活動活性化については顕著な成果を挙げることができなかった。</p>	<p>①全職員で的確な指導・支援を行うため、生徒支援・教育相談に係る研修等を引き続き行う。</p> <p>①特に困難を抱える生徒への支援体制を構築し、より効果的なアプローチを検討する。</p> <p>①授業改善を通じて個別最適な学びを実現し、併せて授業マナーの向上をめざす。</p> <p>②教職員が部活動に参加する時間を創成し、継続した指導を行う体制を構築する。また、本校生徒の実態に即した活動形態等を検討していく。</p>	<p>①授業の様子をみると学び直したい気持ちやわかるようになりたい気持ちのある生徒が増えていると感じる。教員も益々意欲をもって授業に取り組んでほしい。</p> <p>①教員との信頼関係は授業マナーや時間を守る意識の醸成にも繋げることができるので引き続き丁寧な対応を行ってほしい。</p> <p>②学校行事や部活動は生徒の自己有用感を醸成できる効果的なものである。部活動や委員会活動等に主体的に取り組む生徒を増やしてほしい。</p>	<p>①授業マナーの遵守及び身だしなみ指導のためにフォローアップ週間の設定や頭髪指導に着手したが、教員の粘り強く丁寧な指導を生徒や保護者が理解し、成果を得ることができている。また、授業マナー（授業遅刻の抑止を含む）を軸に、魅力ある授業づくりを通じて生徒の学習意欲向上を図ることができた。</p> <p>①個別最適な支援の構築に向けSC、SSW及び児相等の外部機関と連携し、個別支援を進めることができた。</p> <p>②部活動加入率については向上させることができなかった。ただし、少人数ながら積極的に活動している生徒たちへの指導を精力的に行うとともに、顧問と生徒が共に活動するための時間確保に努めている。引き続き活動形態の検討を進める必要がある。</p>	<p>①常に授業開始前に授業担当教員が教室入室し、生徒への声掛けを行うなど、より良好な関係性を構築しつつ、学びに向かう姿勢を醸成する。</p> <p>①引き続き、身だしなみ指導の趣旨を丁寧に伝えながら継続的な指導を行うとともに、遅刻指導等を通じて、社会性を育む。</p> <p>①オンザフライミーティングを活性化させ、生徒情報や効果的な支援方策を共有する。</p> <p>②部活動に対する概念を見直し、新入生オリエンテーションの内容を工夫して部活動の意義や効果を伝えたり、部を統合して間口を広くするなど、改革を視野に入れた検討を行う。また、教員が活動に参加できる時間を確保する仕組みを構築する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの持つ可能性を広げるため、希望や適性を把握し、早い時期からSCCや外部機関とも連携した組織的かつ継続的な進路指導・支援を充実させる。	生徒一人ひとりが持つ可能性を広げるため、希望や適性を把握し指導につなげる。また、総合的な探究の時間における学びの充実を図るとともにキャリア支援センターが中心となり、様々な人材が積極的に連携を図り、3年間を通じた組織的かつ継続的な進路支援を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間や進路行事をとおして、各学年の発達段階に応じたキャリア計画を提示し、生徒一人ひとりの進路に対する意識の涵養を図る。 キャリア支援センターを中心にSCCやCSならびに様々な外部機関とも連携し、全職員の共通理解のもと組織的かつ継続的に進路指導を行うことができる仕組みを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路や将来に対する就労等の意識の向上を促し、進路決定率の割合を向上させることができたか。 SCCやCSならびに緑法人会等の様々な外部連携機関と協働し、キャリア関連行事等を効果的に実施し、各事業参加率を向上させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア支援センター機能の充実を図り、SCCや外部機関と連携し、緑法人会による面接講習会や教職員による探究の時間の実践を通じ、進路未決定者を減少させた。 職業インタビューやかなテク実習、CSの支援によるインターンシップ等の取組を充実させ、生徒の積極的な参加を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究の時間におけるキャリア関連プログラムの精選や実施内容の抜本的な改編など、生徒の自己有用感を醸成し、主体的に進路選択を考慮することができる生徒を育てるための方策を構築する。 キャリア支援センターを中心に、SCCとともに生徒への積極的なアプローチを行い、自立した社会人となるための意識を涵養する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国の動向をみても不登校生徒への対応が全日制の学校にも求められている。田奈高校が培ったノウハウを発信するとともに、あらたな仕組みづくりを検討する必要がある。 SCCの活躍は他県にも紹介しているが、これはSCCの配置のみならず、教員や外部機関がSCCとどのようにリンクするのが重要である。SCCや外部連携を通じて生徒のキャリア形成への意識醸成を引き続き進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の進路については、大学・専門学校への進学35%、就職48%、アルバイト・未決定17%となり、就職の割合が増加し、未決定等の割合を減少させることができた。 SCCによる就労支援については、担任との綿密な連携により生徒個々の個性に応じた支援を行うことができた。また、コンソーシアムサポーター配置校として、地区内のインターンシップのみならず、本校生徒のインターンシップ活動を活性化することができた。 今後も進路未決定者ゼロに向け、3年間を通じたキャリア教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見据えたキャリア教育プログラムの改善を検討してきたが、次年度は実施初年度となることを踏まえ、生徒一人ひとりが主体的に自己の進路について探究するための授業展開及び各種進路行事の実施方法など、外部機関との連携を踏まえた検討を行う。 キャリア支援センター機能の効果的な運用を図るため、多岐にわたる本校独自の外部連携等を全職員が熟知し、個別最適な進路支援に資する。 緑法人会や福祉事業経営者会等との連携を深め、職員全体で関わりを持つ機運を醸成する。
4	地域等との協働	地域の豊富な社会資源や学校運営協議会制度を活用し、地域に根ざした、地域から信頼される学校づくりを進めるとともに、生徒による主体的な地域貢献活動を充実させる。	本校独自の取組である、緑法人会、NPO法人パノラマ、田奈ゼミボランティア(近隣の大学連携を含む)等、様々な組織や人材との連携を図り、地域に根ざした、地域から信頼される学校づくりを進めるとともに生徒による主体的な地域貢献活動を推進する。また、本校独自の様々な取組を地域に発信するための広報活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 本校が行っている様々な取組が中学生や地域住民等に理解されるよう、ホームページのみならず、様々なメディアを活用した広報戦略を企画・実施する。 横浜市や近隣地域の行事などとの連携を図り、生徒の地域貢献の場を設け、生徒の自己肯定感を育む。 NPO法人パノラマや緑法人会等との連携に加え、近隣自治会や近隣大学と連携し、生徒支援の取組を一層深化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な広報活動を通じて、学校説明会や文化祭に来場する中学生等の人数が増加したか。 地域との連携による地域貢献活動の実施頻度が上がったか。 地域の豊富な人材等の参画を得て、生徒支援の取組を推進できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中の学校見学会の新設、文化祭の段階的な公開により、来校する中学生・保護者が増加した。 NPO法人パノラマや緑法人会等との連携によりびっかりカフェや朝食提供事業等を通じて多くの外部人材との協働による支援を実現できた。 近隣小学校との連携により生徒会生徒が児童支援へのボランティア活動に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民からの本校生徒へ理解が進んでいる状況に鑑み、継続して支援をいただいている団体や小学校との連携に限らず、今後、生徒の活躍の場の発掘等を含め、より積極的に連携先の開拓等を進める必要がある。 学校ホームページの充実に加え、中学生・保護者に本校の教育活動や在籍生徒の頑張りや取組み等の魅力を発信するための更なる取組が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> びっかりカフェに参加する生徒の割合が増え、様々な困難を抱えていることも推察することができる。これらの生徒たちへの効果的な支援を共に考えていきたい。 朝食提供や面接講習会等で生徒と関わる頻度が増え、益々生徒を支援したいという会員も増えている。地域の教育力を更に活用していただきたい。 小学校の運動会では田奈高生たちに協力していただき感謝している。児童にも保護者にも好印象であり、連携を継続・拡大していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> NPO法人パノラマにより「びっかりカフェ」を運営していただき多くの生徒がボランティアの方々との交流を持つことができた。 緑法人会により昨年度から実施されている朝食提供事業「♪田奈高校で朝食を♪」は、計65回実施され、平均70人程の生徒たちが利用し、多くのスタッフの方々とコミュニケーションを通じて生活習慣の改善や課題の早期発見等、有益な取組となった。 1年生全生徒による地域貢献活動や生徒会生徒による小学校の運動会ボランティアなどを実施し、地域に根付いた活動を実施し、地域住民に向けて教育活動を積極的に発信するとともに、生徒の自己有用感を醸成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校が行っている様々な取組が中学生や保護者、地域住民等に理解されるよう、ホームページのみならず、様々なメディアを活用した効果的な広報戦略を企画・実施する。 緑法人会やNPO法人パノラマ等との連携に加え、近隣小中学校や自治会、近隣大学と連携し、生徒が主体的に取り組むボランティア活動を始め、生徒の自己有用感を醸成する取組を一層深化させる。 P T Aと生徒が協働して取り組む生徒支援や多くの保護者が参加できる活動をP T Aと共に企画し実施する。
5	学校管理 学校運営	働き方改革を推進し、職員が生徒と向き合う時間を確保することで、職員一人ひとりがクリエイティブスクールとしての本校の使命を踏まえ、意欲的に教育活動にあたることのできる学校づくりを進める。	意欲的に教育活動を実践するための職場づくり及び働き方改革を推進するとともに、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。また、麻生総合高校との連携を深め、県立高校改革(第Ⅲ期)に向けた準備を全職員体制で進める。	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営の中核を担う企画会議において、様々な課題解決に向けた議論を活性化させ、業務のブラッシュアップや効率化等を図る。 県立高校改革に係る校内ワーキンググループを設置し、全職員体制で開校準備に向けた議論や企画等の業務を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画会議が発信する新たな取組や業務のブラッシュアップが図られたか。 働き方改革を踏まえたグループや学年業務の見直しが見直しができたか。 職員の勤務時間の軽減を実現できたか。 開校準備に向けたワーキンググループの議論が活発に行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員数の減少に伴うグループの統合や業務のブラッシュアップや効率化を目指した業務改善等を行った。 風通しの良い職場づくりを推進し、職員の計画的な休暇取得を実現した。 新校設置ワーキンググループを設置し、各グループでの活発な議論を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員定数の減少による教職員一人当たりの業務量増加を避けるため、業務の効率化とスクラップなどに更に積極的に取り組む必要がある。 全教職員が当事者意識を持ち、令和8年度の再編統合に向けた様々な取組みを麻生総合高校と綿密な連携を図りながら推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 再編統合に向けた積極的な検討を行っているが、クリエイティブスクールと総合学科双方の良い面を継承してほしい。 生徒数減少という状況を好機と捉え、よりアットホームで安心できる学校づくりを進め、周囲にもアピールしてほしい。 田奈高校独自の様々なシステムを継承するための教員研修は非常に有効であり、大切にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ業務の移管や人員の調整等を通じ、業務量の偏りの解消に取り組むとともに、業務のスクラップへの意識を啓発し、スリム化、効率化を図った。 支援のヒント集や授業のヒント集他、本校の様々な生徒支援システムのマニュアルをブラッシュアップするなど、業務の共通理解を図った。 働き方改革の取組として会議の効率化に向けたペーパーレス化の推進等を行ったが、会議回数の減少等には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務のスリム化、効率化、ブラッシュアップについては不断の努力を行う。特に企画会議における議論を活性化し、グループ横断的な業務推進を含め、働き方改革を進める。 令和5年度の再編統合に向けたプロジェクトチームの議論を継承し、新校設置に向けた様々な取組を効率的に行う。 勤務時間内における会議の設定等を工夫し、生徒と対峙する時間や教材研究に充てる時間を創出する。